

様式1

令和元年度 学校評価表

| | |
|---------------|---|
| 学校教育目標 | 社会で通用する基礎・基本を磨き、よりよい自分、よりよい学校、よりよい社会を目指そうとする生徒の育成 |
|---------------|---|

| | |
|----------------------------------|---|
| a ミッション 【地域・社会における本校の使命・存在意義】 | 地域が誇る学校づくり ～ 地域からの期待に応え、期待を超える学校づくりを ～ |
|----------------------------------|---|

評価計画

| | b 中期経営目標 | c 短期経営目標 | d 目標達成のための方策 | e 評価指標 | f 目標値 |
|--|---|--|---|---|----------------------------------|
| 育成する資質・能力 「高い志とチャレンジ精神」「はがれ落ちない基礎・基本」 | 自分自身で、また、まわりと力を合わせて、「よりよい自分」、「よりよい学校」、「よりよい社会」を創り出そうとする 【育成する資質・能力】 「高い志とチャレンジ精神」 | ○生徒会の活性化による生徒の自治力の向上 | ◎生徒会執行部の育成による意識とリーダー性の向上 ■各行事における生徒会の主体的な「場」の設定 ■生徒会各委員会の主体性の向上 ■生徒会執行部による学校力向上に向けた提案力の向上 | 「自分達の学校を自分達で更によくしていこう」としている生徒の割合 | 80% |
| | | | ○向上心・実行力の育成 ■「プラス・ワン」の日常的な・評価・励ましを通じた意識化の向上 | 生徒会の答委員会の活動は、自分達の学校生活をよくすることに大きく貢献していると感じている生徒の割合 | 80% |
| | | ○現状に満足することなく、常に向上心を持って、思いを実行に移そうとする生徒の育成 | ■地域や学校、集団への「貢献」を意識したボランティア活動の活性化 ■「『走る』学校文化」の更なる充実・「10分間走」への意識の向上・部活動の練習における「走る」練習の充実 | 「プラス・ワン」を達成できるように努力している生徒の割合 | 90% |
| | | | | 地域や社会のために何か役立つことをしようと意識し行動している生徒の割合 | 80% |
| | 「社会で通用する基礎・基本」を身につけ活かすことができる 【育成する資質・能力】 「はがれ落ちない基礎・基本」 | ○「主体的に学ぶ」意欲を育てる授業づくりの推進 | ◎授業改善の推進 ■「学びに向かう意欲」を向上させるための授業の工夫を意識した授業改善の推進 ■「課題発見・解決学習」の単元開発・実践による授業改善の推進 | 「授業の課題について『なぜだろう』『やってみよう』と思う」生徒の割合 | 90% |
| | | | ○「生きて働く知識・理解」の育成と「学びの土台づくり」の充実 | ◎基礎学力の定着に向けた指導の徹底 ■「学びのサイクル」の充実・発展（本時のめあての工夫、家庭学習の充実） ■「南中タイム(週まとめテスト)」の内容及び実施方法の見直しと改善 | 「できた」「わかった」と授業で感じている生徒の割合（全教科平均） |
| | 学校に、規律と自律、安心感と充実感があり、生徒が、生き生きと学校生活を送ることができる | ○生活習慣の改善ときめ細やかな見取りと対応による不登校生徒の減少 | ◎不登校の未然防止 不登校生徒への支援の充実 ■教育相談・家庭連携・関係機関等との連携の充実 ・SCとの教育相談委員会の充実 ・SSWの活用による生活改善の推進 ■生徒理解・安心できる集団づくりの推進（アセス活用、面談、学級経営の充実） | 中学校生活を要因とする新たな不登校生徒を出さない | 0人 |
| | | | ○自らを律するとともに、学校生活に充実感を見いだせる生徒の育成 | ◎生徒指導体制の改善 ■全教職員による指導の徹底、家庭連携の充実 ■充実感・達成感の向上（小中連携の推進、生徒主体の活動の充実） ■挨拶の活性化 | 現在不登校生徒の登校日数の増加（校内適応指導教室への登校も含む） |
| | | | | 「学校や社会のルールを守っている」と思っている生徒の割合 | 95% |
| | | | | 「みんなで何かに取り組み、やってよかったと感じることがある。」生徒の割合 | 90% |
| | | | | 学校でも地域においても「自分から積極的に挨拶をしている」生徒の割合 | 90% |